

特別支援学校における児童生徒の資質・能力を育む教員の指導力の更新 —ICTを活用した授業づくりと校内体制整備を通して—

■研究指定・委嘱校(地域)
福岡県立太宰府特別支援学校

研究の目標

特別支援学校における児童生徒の資質・能力を育む教員の指導力の更新を目指し、ICTを活用した授業づくりや校内体制整備の在り方について明らかにする。

研究の内容

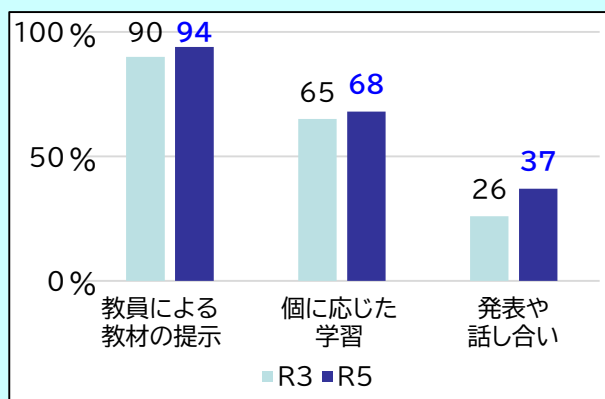
- 視点1:ICTを活用した授業づくり
- 視点2:校内体制整備

研究の成果

太宰府特別支援学校の成果

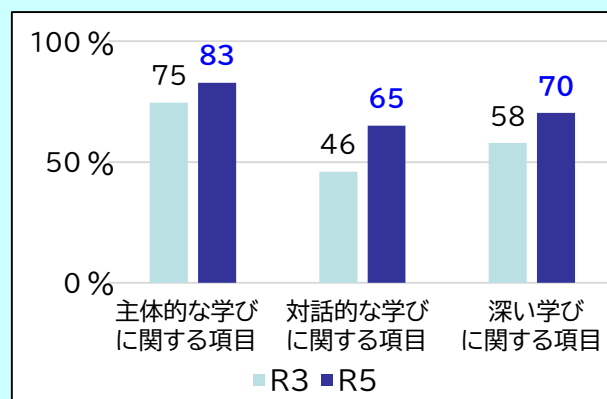
◎ 主体的・対話的で深い学びを実現するために、効果のある手段としてICTを活用する教員の姿が見られた。 → 教員の指導力が更新

主な学習活動における
教員のICT活用率がUP!



ICT活用方法の実態

主体的・対話的で深い学びの実現のための
ICT活用率がUP!



授業づくりにおけるICT活用の実態

おすすめポイント

太宰府特別支援学校の研究のポイント

特別支援学校において、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したい学校・教員

【視点1】ICTを活用した授業づくり

- 主体的・対話的で深い学びの観点を設定
- 協働した話し合いを活発にするために、クリアビジョンシートを活用
- 主体的・対話的で深い学びの観点及びICT活用を位置付けた学習指導案の様式を作成

【視点2】校内体制整備

- 校務分掌を横断的に組織した「ICT活用サポートチーム」を編成
- 研修企画、授業支援、環境整備の取組を実施

「ICT活用事例集」の紹介

授業の中で効果的であったICT活用の事例について、学校ホームページに掲載
どのような場面で、どのようなICTを活用し、児童生徒の姿がどのように変容したのかを紹介

【ホームページの二次元コード】



研究の構想

特別支援学校における児童生徒の資質・能力を育む教員の指導力の更新

【視点1】:ICTを活用した授業づくり

- 授業づくりグループでの協働
- 主体的・対話的で深い学びを実現するICTを活用した授業づくり
- 協働した授業づくりを充実させるための手立てと仕組みづくり
- ICT活用及び観点を位置付けた学習指導案様式の作成
- 主体的・対話的で深い学びの観点的設定

主体的・対話的で深い学びを実現するために

- 3年次:最も指導の効果のある手段としてICTを活用する教員
- 2年次:指導の効果のある手段としてICTを活用する教員
- 1年次:ICTを活用する教員

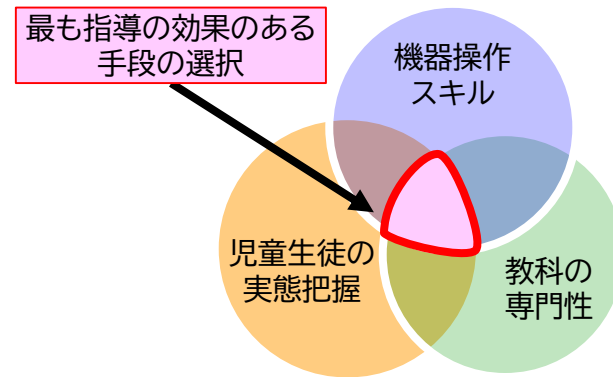
本校の課題:ICT活用の課題/指導技術等の継承

今日の課題:複雑で予測困難な社会の到来/学校教育のICT化の流れの加速

【視点2】:校内体制整備

- ICT活用サポートチームによる多面的・多角的で効果的な支援
- ニーズに対応した分掌横断的な組織体制 (ICT活用サポートチーム)づくり
- 組織の連携体制の構築
- 研修企画:段階的な職員研修の企画
- 授業支援:個別の相談や支援
- 環境整備:ICT活用推進環境の構築

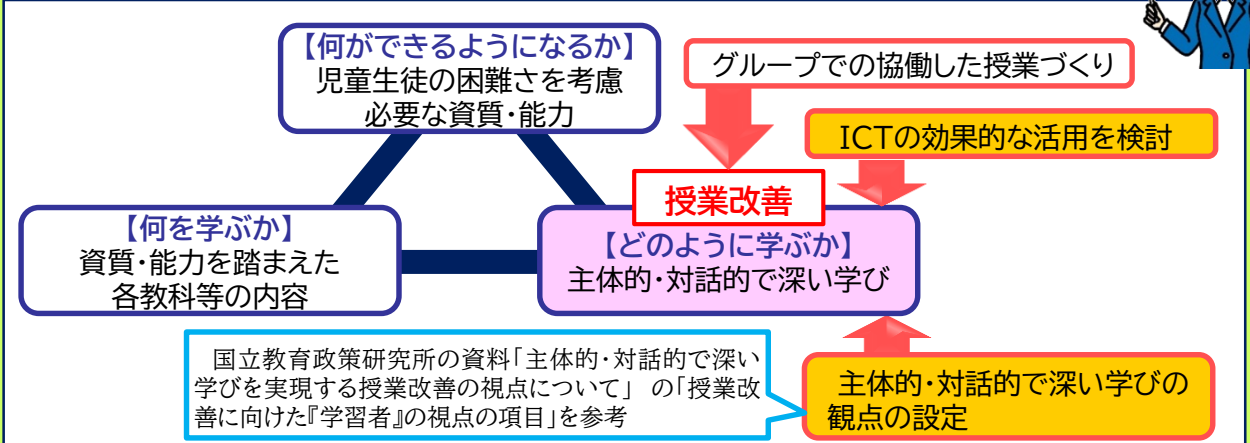
最も指導の効果のある手段の選択



- 授業づくりにおいて、教科の専門性と児童生徒の実態把握、教員の機器操作スキルの合点が、最も指導の効果のある手段の選択にあたりと考える。

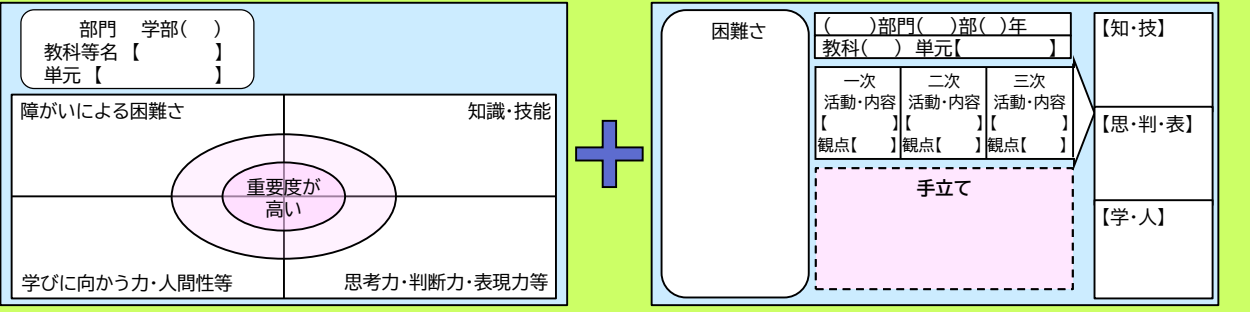
研究の実際 ■ 視点1: ICTを活用した授業づくり

本研究における主体的・対話的で深い学びの位置付け



- 児童生徒が「どのように学ぶか」に着目し、「主体的・対話的で深い学びの実現」という視点から授業を見直し、授業改善を実施
- ティームティーチングを実施する同学部や同学年教員で授業づくりグループを構成

クリアビジョンシートの活用 【シート①】 【シート②】



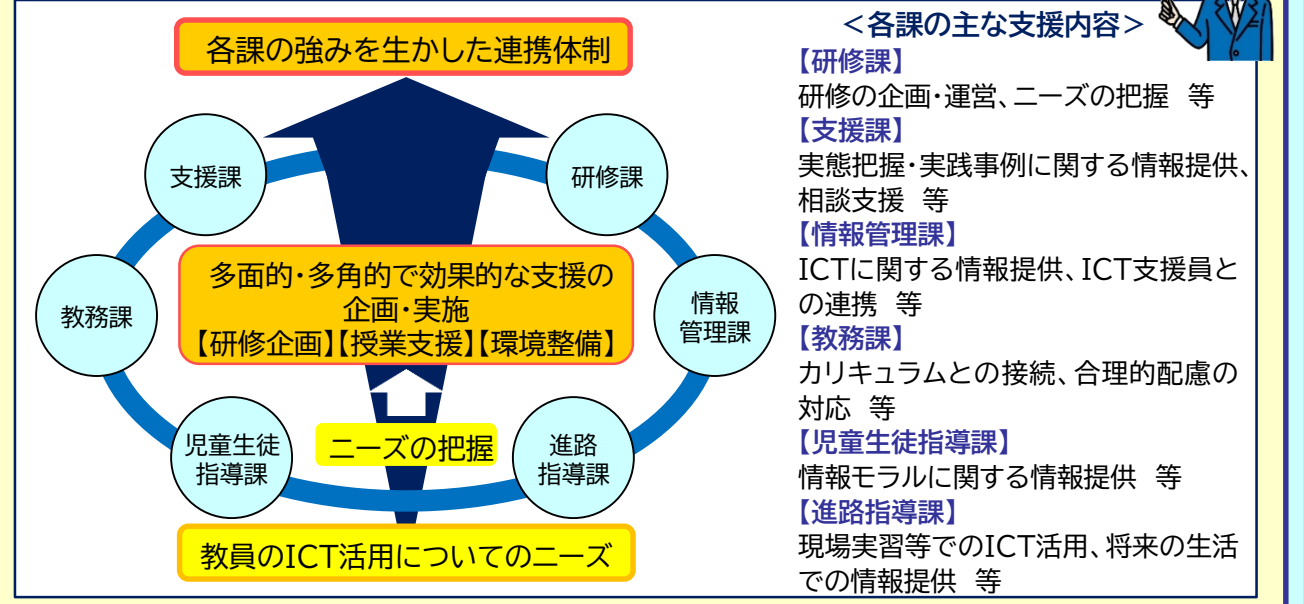
- クリアビジョンシートは、協働した話し合いを活発にするためのツールとして活用
- シート①・・・児童生徒の実態を重要度で整理
- シート②・・・シート①を基に、具体的な指導の手立てについて検討

主体的・対話的で深い学びの観点及びICT活用を位置付けた学習指導案 【各教科等の学習指導案】

○学部 第●学年●組 ○○学習指導案 指導者□□□□	単元目標 知識及び技能 思考力、判断力、表現力 学びに向かう力、人間性等	3 本時 本時の目標 知識及び技能 思考力、判断力、表現力 学びに向かう力、人間性等
1 単元名「 」	単元で取り扱う内容	本時の展開 令和○年○月○日() 第○校時【場所】 本時(/)
2 単元構想 単元に関する実態	単元指導計画 学習活動(時数) 主・対・深の観点 指導の手立て ●ICT活用(機器・アプリ等)	配時 学習活動・内容 主・対・深の観点
基礎情報	主体的・対話的で深い学びを実現するために、学習活動の際に、どのICTを活用するのかを明記する。	評価 観点 評価の根拠となる児童生徒の姿 尺度 4-3-2-1 4-3-2-1
資質・能力に関する実態	ICT活用を中心とした手立ての効果 授業でICTを活用した際に考えられる効果について明記する。	
障がいによる困難さ	障がいによる困難さについて記載し、手立てとして活用するICTの根拠を示す。	

■ 視点2: 校内体制整備

ICT活用サポートチームの組織づくり 【ICT活用サポートチームの構想図】

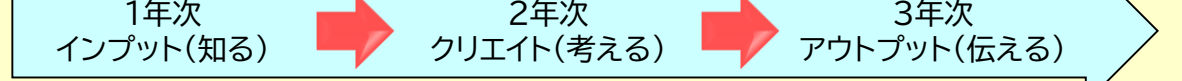


- 教員のICT活用に関するニーズに対応して多面的、多角的で効果的な支援を行うために、校務分掌を横断的に編成した組織
- 研修企画、授業支援、環境整備の三つの取組を通して教員のICT活用に関するニーズに対応することが目的
- 研修課、支援課、情報管理課、教務課、児童生徒指導課、進路指導課の6課からメンバーを選出

研修企画 【研修の内容と形態】

研修名	内容	形態
ベースアップ研修	職員全体で共通理解が必要な内容	講義
ミニ研修	テーマや習熟度に応じた内容	講義、演習
アップデート研修	ニーズに応じた発展的な内容	講義、事例検討
テーマ別研修	テーマ設定による少人数体制の課題解決型	講義、演習、発表

【テーマ別研修の段階的・発展的な形態】



- 授業の事前事後においてICT活用を行う上で生じるニーズを把握し、対応
- 講義型の研修から段階的に少人数のグループで取り組む課題解決型研修に体制を整え、教員同士の学び合いの活性化を促進
- テーマ別研修では、「インプット(知る)」「クリエイト(考える)」「アウトプット(伝える)」と段階的に研修形態を発展させ、教員が主体的となる研修を運営

- 授業支援
- 授業づくりにおける授業構想から評価まで幅広く対応
- 環境整備
- 授業実践に直接つながる新しいアプリの紹介、ICT機器の整備などのニーズに対応

